

## 【取扱い厳重注意】

平成24年5月18日

## 聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局

局員 岡田 幸大

平成24年5月18日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

## 記

## 第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

## 1 被聴取者

東京電力 柏崎刈羽原発 計測制御グループ 保科司

## 2 聴取日時

平成24年5月18日午後1時30分から同日午後2時30分まで

## 3 聴取場所

柏崎刈羽原子力発電所 第4応接室

## 4 聴取者

岡田 参事官補佐

## 5 ICレコーダーによる録音の有無等

 あり なし

## 第2 聴取内容

KKの支援APDの2Fから1Fへの移送について  
別紙のとおり

## 第3 特記事項

なし

以上

【取扱い厳重注意】

別紙

1. 被聴取者の身分について

私、保科司は、柏崎刈羽原発（以下「KK」という。）の計測制御グループに所属している。事故後は、復旧班員となった。事故前後とも、圧力指示計や温度指示計等の計測設備の保守点検や修理調整を行っていた。13日にKKから福島第二原発（以下「2F」という。）を経由して福島第一原発（以下「1F」という。）の応援に行き、14日の3号機水素爆発後、2Fに退避し、そのまま1Fには戻らずにKKに帰った。

2. APDの移送について

私を含む計測制御グループのメンバー30名程は、3月13日にKKをヘリで出発し、いわき市好間のヘリポートに到着した。そこから、1Fが用意した観光用の大型バスに乗って、2Fに向かった。

2Fでは、事務本館の玄関で、2F職員の指示により、そこに積まれていたビニール袋、下着、カバーオール、木靴、キムタオル等の保安用品をバスに積み込んだ。その中に、プラスチックケースが2つあり、立ち会った2F職員に中身が何か尋ねたところ、APDだと言われたのを覚えている。ケースを開けて確認はしていないが、自分達が装着したものと同一ピンク色のAPDらしきものが外からうっすらと見えた。運んだ物資の中にAPDの充電器はなかった。また、この場で、私達もカバーオールと防護マスク、APDを身に着けた。その装備品は2Fで用意してくれたものである。1時間ほど2Fに滞在し、再びバスで1Fに向かった。同行した■■■■ GMが書いていたメモによると、2F到着が11時45分頃、2F出発が12時45分頃、1F到着が13時30分頃である。

1Fに到着すると、パケツリレー方式で保安用品をバスから降ろした。私はバス側の担当だったので、降ろした物品が1F内のどこに運ばれたのか詳しくは分からないが、APDのケースについては、免震重要棟に入ってすぐの右側にある警備員がいた部屋の前に置かれているのを見て、電子部品なので別に置いたのだなと思った記憶がある。